

2017年 東洋交通労働組合・共済組合 新年会

2017年1月14日(土) 15日(日)西台の王華において東洋交通労働組合・共済組合の新年会が開催されました。14日には86名、15日には93名の組合員が参加しました。

菊池執行委員長の挨拶

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様には、昨年1年の組合活動へのご理解、ご協力に感謝申し上げます。

2016年春闘では解決一時金の増額を勝ち取り、また秋闘ではまだ発表はしていませんが、無線待機での迎車・予約料金の補償には至りませんが、待機時間の延長(現行爾後4回から爾後8回まで)を勝ち取ることができました。これも組合員の皆様のご協力があったからこそ勝ち取れたものだと思います。

ライドシェア問題について

年始に配布して頂いたポケットティッシュには、『ライドシェアのような無責任なところに任せず、私達が責任を持って輸送します』というような内容が書かれていました。先日、お配りしたリーフレットは、『白タク合法化阻止』を訴え、ライドシェアの危険性がわかりやすく書いてあるものでした。私達の業界を脅かすライドシェアについて、まずは組合員の皆様が理解をするということが大切です。



菊池執行委員長

事業者が掲げる活性化について

ライドシェアに対抗する為、タクシーの活性化の1つとして『初乗り距離短縮運賃』がスタートしようとしています。もちろん労働組合としては「労働者の犠牲のもと成り立つ活性化」には反対の姿勢ですが、事業者もこの業界を守るために必死になっていきます。アプリや新しいメーター機の不具合で、乗務員の皆様には不便をおかけしていますが、それを改善するには不具合の報告をあげていくことが必要です。不満を言うだけではなく、改善に繋がるご協力をお願い致します。そして、私達も「労働者の努力のもと、花開き実のなる活性化」となるよう運動を進めていきたいと思えます。

品質向上に努めよう!

先日、無線配車実績では日本交通がトップとなり、更に飛鳥交通が日本交通グループになったことで670台ほどの車加わり、今後を期待をしていますが、業務提携したと発表されました。台数では負けていますが、品質ではどこにも負けない接客とサービスでお客から選ばれるタクシーが桜にNです。この品質をお客様に提供し、タクシーにしかできないサービス、地理の知識、安全・安心でお客様を快適に輸送することが、ライドシェアに対抗し、この業界で生き残っていく道だと思っています。

ライドシェアのドライバーは一般人です。私達は資格を持ち教育を受けたプロドライバーとしての誇りを持ち、お客様から「やっぱりタクシーが良い」と選んで頂けるよう、今後も品質向上に努めていかなければなりません。

選挙運動について

本日来賓でJR総連より前参議院議員の田城郁様にお越し頂いております。組合員の皆様にはご協力頂きましたが、僅差で惜敗という残念な結果でした。労働組合として力不足であったことをこの場を借りてお詫び申し上げます。我々の交通産業を守ってくれる議員を減らしてしまい、危機的な状況であることを周知し、次の選挙運動へ繋げていきたいと思えます。



全自交労連 高橋書記次長

全自交労連 伊藤中央執行委員長

全自交労連の伊藤委員長はライドシェア問題に対し「ウーバーは商売をする気もない交通空白地を利用するなどしてじわじわと包囲網を狭めている。昨年以上に厳しい状況だ」と危機感を表明し、「労使一体で取り組みを進めているが、どうして

も世間には業界エゴだという捉え方をされてしまう。そのために『市民会議』を通じてウーバーやギグ・エコノミー(単発の仕事・日雇い)という働き方の問題を社会に訴えていく」として運動への理解を求めました。

全自交労連の高橋書記次長はライドシェアについて「昨年、国交省が安全に問題がある」とし、法律上認められないと結論を出したのにも関わらず、竹中平蔵氏・楽天の三木谷氏が過疎地を使いウーバーを広めようとしている。狙いは大都市である。海外でもウーバーを排除する動きになっている中、日本に上陸させないという闘いは私達次第である。市民会議を開き、利用者の理解を求め反対運動を進めていく」と協力を求めました。



ライオン交通労組 源田書記長

ライオン交通労組 大松執行委員長



日交労赤羽支部 曾我支部長

羽田交通労組 後藤委員長